

香 川

まごころこめた手づくりの味—
 徳島市南二軒屋町1(二軒屋駅前)
 電話(088)623-1118
 http://www.saoshika.co.jp/

小男鹿
 徳島市南二軒屋町1(二軒屋駅前)
 電話(088)623-1118
 http://www.saoshika.co.jp/

この日は下に掲載

5時5分
5時5分
5時5分

のち
一時々

数字(上)最高気温
数字(下)最低気温
丸囲みは降水確率
白叉キは50%以上
は正午の風向き
矢印なしは無風

30 16 20	31 16 20	29 19 20	1日 16 20	28 19 20
30 16 20	31 16 20	29 19 20	1日 16 20	28 19 20

善通寺 医療センターのホスピタルアート

患者に寄り添う絵画

車を走らせていると、白い外壁に、ハートの美がなるオレンジ色や緑色の木々が描かれた建物が見えてきた。昨年5月に開院した「国立病院機構四国」ごもとおとなの医療センター「善通寺市仙遊町2」だ。絵などの美術作品を通して、病院を利用する人の気持ちに安らぐ空間をつくる「ホスピタルアート」に取り組んでいる。患者に寄り添う心を形にする病院の姿を取材した。

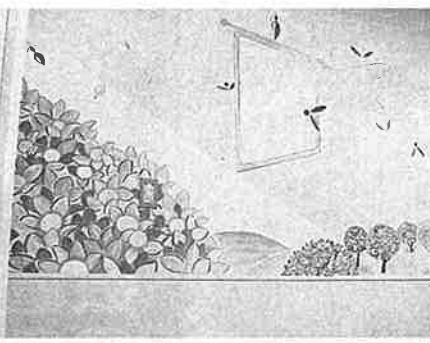
【馬淵豊子】

取り組みを中心となって担っているのはNPO法人「アーツプロジェクト」(大阪府豊中市)の会員で、センターにホスピタルアートディレクターとして勤務する森合音さん(41)＝徳島県美馬市。2009年、センターの前身の一つの香川小児病院で、治療を受ける

子どもたちが穏やかな気持ちでいられるようにと、クスノキの壁画を制作した。これをきっかけに、本格的に活動を始めた。

センターの廊下の壁19カ所にある小窓のような棚「ニッチ(すき間)」。美術作品や花とともに、患者らが手作りした折り紙やぬいぐるみといった贈り物が置かれ、来院者は誰でも持ち帰ることができる。香川小児病院時代、入院中の女の子が作った腕飾りを院内の椅子に置いたところ、子どもらが手に取って喜び、それが女の子の喜びにつながった。世話をしてもらって

子どもたちが穏やかな気持ちでいられるようにと、クスノキの壁画を制作した。これをきっかけに、本格的に活動を始めた。



入院中の手作り品「恩返し」も



壁のニッチの一つには、患者らが作った贈り物が入っている

ばかりで心苦しい思いの患者は少なくない。感謝の気持ちをさりげなく贈る仕掛けだ。

入院患者の個室では、多機能型端末「iPad」に取り込んだ画像から、壁に掛ける絵を選ぶことができる。約300点。いずれの作品も、開院に合わせて県内外の画家や美大生が「祈る」「待つ」「寄り添う」をテーマに描いたものだ。青が基調の風景画を選んだ入院中の男性(74)は、「気持ち良さそうなお絵でパッと見た印象で決めた。今は外出できないけれど、まるで旅行した気分」と笑顔を見せた。

手術室そばの待合室には今年3月、看護師からの「閉鎖的で息苦しくなってしまうのでは」との声を受け、オリブとミカンの木々を背景に窓から風が吹き込む構図の壁画が完成した。手術室担当の西前真里看護師長(46)は「不安な思いで来る人に笑顔での対応を心掛けているが、その大きな手助けになっている」と手応えを話す。

取り組みには、病院職員と患者のほか、協力してくれるアーティストや地域住民などとの対話から生まれたものもあり、広がりを見せている。森さんは「私自身も全然想像していなかった。発展で、病院が外に開かれてきた。誰かが誰かの幸せを願う気持ちが形になって循環しています」と美感を込めた。

看護師らの声を反映した手術室そばの待合室の壁画「iPad」患者とお気に入りの絵を探る森合音さん(中央)「いずれも善通寺市仙遊町2の四国で、おとなの医療センターで」